

2013年

春

どうそ 満

## 議員活動報告



発行責任者 道祖 満

飯塚市鯉田2525-44

TEL 25-3280・22-9323

つくります!  
newしいつがライフ

飯塚市議会議員

どうそ

道祖

満

e-mail:m.douso@fmwu.or.jp

# 桜花散りぬる風のなごりには

## 水なき空に波ぞ立ちける

(紀 貫之)

皆様、元気でお過ごしですか。

自宅の前の公園では彼岸桜が散る前に桜の花（ソメイヨシノ）が咲き始め、例年よりも1週間以上は早い開花となり今は満開です。

この議会報告を皆様にお届けする頃は、緑の美しい葉桜となっていると思いつつ机に向かっていきます。

飯塚市議会では、2月20日から3月21日まで飯塚市一般会計予算を始め平成25年度の施政方針を定める3月定例会市議会が開催されました。

3月定例会市議会では市長の新年度の施政方針に対して代表質問が行われますが、質問者が多く質問内容が重複することが予想されたので、今回は市有財産の管理について・市役所窓口の在り方について・子育てに関連しての3項目について一般質問を行いました。（今回から代表質問、一般質問の質問順番は、これまでの届出順からくじ引きによる順番に変更されました。）

また、平成25年度飯塚市一般会計予算を審議する予算特別委員会の委員を希望して予算審議に参加いたしました。



（平成25年1月20日開催された、鯉田地区のどんと焼行事に実行委員として参加致しました。）

## 平成 25 年 3 月 定例市議会報告

平成 25 年 3 月 定例市議会が 2 月 20 日から 3 月 21 日まで開催されました。

今回の定例市議会では、平成 24 年度飯塚市一般会計補正予算（第 8 号）（第 9 号）を始めとして平成 24 年度の各特別会計の補正予算 9 件、平成 25 年度の飯塚市一般会計予算と平成 25 年度の各特別会計予算 16 件の審議と、条例議案 13 件、その他の議案 8 件、人事議案 2 件、議員提出議案 4 件、報告事項 6 件、議会から農業委員会委員を推薦することと各種委員会委員を選出することが審議されました。

条例議案の主なものは、

- ◎「飯塚市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例」は、幸袋中学校区に建設する飯塚市立小中一貫校の建設設計者を調査審議するための選定委員会を設ける。
- ◎「飯塚市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例」は、飯塚市新庁舎建設設計者が選定されたためこの選定委員会を廃止する。
- ◎「飯塚市職員定数条例の一部を改正する条例」は、行財政改革に基づく市の組織再編に伴い、職員定数を 1163 人から 952 人に平成 25 年 4 月 1 日から変更する。
- ◎「飯塚市営駐車場整備基金条例」は、飯塚市駐車場事業特別会計で飯塚市立体駐車場建設費の償還金の返済が完了することに伴い平成 25 年度から発生する余剰金を基金として積み立てる。（平成 25 年度では 173 万円を見込んでいます。）
- ◎「飯塚市子ども医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例」は、子ども医療費の支給を、これまでは 9 歳迄であったものを入院に係る医療に限って 12 歳までに平成 25 年 7 月 1 日から支給する。
- ◎「飯塚市介護サービス事業等の人員、設備及び運営の基準等に関する条例の一部を改正する条例」は、暴力団による社会経済活動への介入を阻止すること目的として、介護サービス事業等の運営から暴力団関係者を排除する措置を講じるもの。
- ◎「飯塚市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例」は、診療科目の胸部外科を、呼吸器外科と乳腺外科とし医療の充実を図る。

平成 24 年度の「飯塚市一般会計予算」は、国の経済対策を受けて補正予算第 9 号で 19 億 6368 万 8 千円が計上された為、補正後の予算は 635 億 399 万 8 千円となりました。この補正の主なものは、各所道路補修事業費 3 億 640 万円、中心市街地歩行者空間整備事業費 2 億 2400 万円（内、新飯塚商店街通り歩行者空間整備工事歩道改良 1 億 4650 万円）、中心市街地活性化事業費 4 億 8777 万円（内、新飯塚駅周辺整備事業による駅北側遊休地の整備 3 億 6983 万 2 千円）、中心市街地活性化事業飯塚緑道整備工事 1 億 4 千万円、穎田小中学校統合事業既存校舍解体・プール工事等 4 億 9450 万円となっています。

平成 25 年度の「飯塚市一般会計予算」は、総額 625 億 7600 万円で支出の歳出

の主なものは、

◎市職員人件費が平成24年度961人から20人減の941人とし77億1547万2千円（昨年度より9040万1千円の減）◎行財政改革推進経費82万円（第二次行革大綱及び実施計画の策定）◎自治基本条例策定経費304万8千円（平成25年度制定を目指し検討・策定作業を実施）◎コミュニティバス等運行費1億31万2千円、◎新市庁舎建設事業費5402万1千円（第一別館解体に伴いサーバー室を穂波庁舎に移転するための設備工事、地域包括支援センター・介護訪問調査員を穂波庁舎に移転するための公用車駐車場整備等）◎休日等子育て支援事業委託費183万7千円◎農業土木浸水対策事業費4億9183万3千円（鯉田井手の上用排水路改良工事、大谷池貯水施設改良工事、各種調査測量設計委託料等）下水道浸水対策事業費8億1435万7千円（浦田第一雨水幹線整備実施設計、熊添川流域調整池新設事業費、二瀬排水ポンプ設置事業費等）です。

西日本新聞

2013年(平成25年)2月16日土曜日

飯塚市13年度  
当初予算

2/16  
西日本

合併後最大  
625億円

市街地活性化など本腰

飯塚市は15日、総額625億7600万円の2013年度一般会計当初予算案を発表した。前年度当初に比べ38億2600万円増（6.5%増）で、06年の合併後で最大規模となった。市が重要施策に掲げる浸水対策、小中学校の施設整備、中心市街地活性化の三大事業が本格化するのが要因。20日開会の定例市議会に提案する。

財源については「合併特別債を最大限活用する形で予算編成した」（斎藤守史市長）としており、13年度末の市の借金（市債残高）は、前年度末に比べ41億8800万円増えて601億700万円に上った。

成人は、市税が前年度当初比0.1%増の132億3千万円、地方交付税は同0.3%減の167億円。中心市街地活性化など投資事業の本格化に伴い、国庫支出金は同8.5%増の137億2100万円、市債発行額は同35.9%増の91億500万円になった。

歳出は、行財政改革による職員数の減少により人件費が同0.6%減の72億6000万円。一方、生活保護費など福祉関連の扶助費は同0.1%増の200億8300万円。歳入の32.6%を占めた。投資的経費は同81.7%増の97億700万円に上った。

飯塚市は、13年度末の市の借金（市債残高）は、前年度末に比べ41億8800万円増えて601億700万円に上った。

成人は、市税が前年度当初比0.1%増の132億3千万円、地方交付税は同0.3%減の167億円。中心市街地活性化など投資事業の本格化に伴い、国庫支出金は同8.5%増の137億2100万円、市債発行額は同35.9%増の91億500万円になった。

歳出は、行財政改革による職員数の減少により人件費が同0.6%減の72億6000万円。一方、生活保護費など福祉関連の扶助費は同0.1%増の200億8300万円。歳入の32.6%を占めた。投資的経費は同81.7%増の97億700万円に上った。

新規事業は、公園遊具の長寿命化（5千万円）▽小学4～6年生の入院医療費の自己負担軽減（476万円）など。

市議会運営委員会は15日、3月定例会の会期を20日から3月21日までの30日間と申し合わせた。代表、一般質問は3月4～7日。

(吉田修平)



## 休日に小学生を預かる制度導入決定

飯塚市では、幼児を預かる休日保育を実施していますが、放課後の児童クラブのように休日に小学生を預かる制度がこれまでありませんでした。

2年前の東北の大震災後電力不足が懸念され企業の休日稼働が行われましたが、その際に保育所等の休日開所の要望がありました。

これを切っ掛けに休日に働く人たちの環境整備に取り組む事が必要と考え、昨年3月定例市議会で市長の施政方針に対して代表質問の中で、昨年3月に少子化社会対策会議から出された「子ども・子育て新システムに関する基本制度とりまとめ」の考えに従って、児童の保護者の就労実態に合わせて、小学生の休日の児童クラブ運営を要望致しました。

その際の答弁では、「休日の子どもの過ごし方については、仕事と子育て・家庭の両立を推進して行く上から一般児童対策として検討していきたい。」との事でしたが、この要望が認められ平成25年度の一般会計予算に「休日等子育て支援事業委託料」として183万7千円計上され、実施内容は、日曜日と国民の祝日の午前8時から午後6時まで、小学校1年生から4年生を対象に一時的に預かる。

定員30人で市内児童センター1カ所で実施、利用者の負担は1日1000円・半日500円、開所は7月1日を予定、となっています。

今後の推移は運用状況を見なければなりません、県下でも新しい試みで有り行政の積極的な取り組みについては評価出来るものと考えています。

### 西日本新聞

2013年(平成25年)2月16日 土曜日

福岡県飯塚市は新年度から、日曜、祝日に家庭で親が留守になる児童を小学校内の施設で預かる子育て支援事業を始める。経済情勢の悪化などで休日も働く親が増える中、子どもの安全を守るのが狙い。市によると、自治体が一年を通して休日に児童を預かるのは全国でも珍しいという。NPO法人などに運営を委託する費用として183万円を新年度当初予算案に計上、20日開会する3月定例市議会に提案する方針。

飯塚市では共働きや1人親の家庭の児童について、平日と土曜は放課後児童クラブ(学童保育)で預かっており、1日現在で1596人が利用登録している。ただ、日曜、祝日は実施しておらず、家

## 休日も"学校"OK

<sup>9/16</sup>  
6/16 **飯塚市** 冠婚葬祭急用も可能

庭で1人になる児童の安全を懸念する声も上がっていた。休日預かり事業は学童保育を補完する役割も担う。預かり条件は設けず、冠婚葬祭など急用の場合でも利用可能にする方針。

6月をめどに、市中心部の片島小学校内の児童センターで開始。需要状況をみて、拡大するかどうかを検討する。

対象は原則として小学1～4年生。利用料は午前8時～午後6時の終日で1回当たり1000円、半日は500円。市幹部は「休日子どもを預かってほしいという親の声に市が応えた。行政として子どもの安全を守らなければならない」と話している。(塩入雄一郎)

## 市有財産の管理について一般質問

旧穎田第二保育園の売却に関して市有財産の管理について一般質問を行いました。

旧穎田第二保育所は、平成 21 年 3 月 31 日で用途廃止が決定し 2 度の売却公募の結果、平成 25 年 1 月に 2 回目の公募落札者と不動産売買契約が締結され売却が決まりました。

落札者が決定後、改めて現地を確認したところ、室内空調設備（エアコン）の室外機が一台も無い事に気づき、このエアコンの取扱がどのようになっていたのか確認致しました。その結果、エアコンについては穎田保育所として使用していた当時は、備品として台帳に登録されていたが、用途廃止後日常的に管理する者がいなくなり平成 21 年 11 月にエアコンの室外機が盗難にあい警察に盗難届けを出した。市有財産が盗難に遭ったことは適切な管理を怠ったことによるもので申し訳ない。今後は、「飯塚市物品管理規則」に基づき、適切かつ効率的に管理を行っていく。との答弁がありました。

また、今後、学校の建て替え等により不用になる備品が多数生じるが、どのように管理するのか。また、今後、財産管理はどのように行っていくのか。との質問に対して、今後、多くの施設の統廃合を控えており、有効な市の財産を効率的に活用出来るよう関係課と連携し適正に管理出来る体制を作っていく。との答弁でした。

今回エアコンの室外機が盗難に遭っていることを一般質問を通じて確認致しましたが、今後この様な盗難の事実を市議会に報告することを要望しました。

また、盗難の事実を市役所内部の情報として各課が共有していなかったことも指摘し、今後の市有財産の管理の在り方について検討する様に要望致しました。

(今回のエアコンの室外機の盗難については、備品のため保険の適用はないとのことでした。市の備品が無くなっても誰も賠償等の責任が無い事は問題だと感じています。)

## 市民窓口の対応について一般質問

現在、市民窓口の利用状況を見ていると以前に比べ利用者数が増加し、その中でも 12 時から 13 時の間の利用者が多く見られますが、市民の方から、この時間帯に窓口を利用したが、市職員が窓口の業務机で食事をしている姿は、窓口利用者としては利用しづらいし、市職員もゆっくりと食事が出来ないのではないかと指摘を頂きましたので、改善策について検討する様に一般質問を通じて要望致しました。

これに対して、市民の皆様からも同様な意見を頂いており、市民サービスと職員の健康管理の観点からも対応は必要と考えているが、現状の限られた空間の中では抜本的改善策がない、新市庁舎が完成する平成 29 年度までは 4 年間あるが、この間は現状のまままで対応するしか方法は無いとの答弁でした。

これに対して、パーテーション・ロールアップカーテン等の利用を考え、改善策を講じるように要望致しました。

## 子ども・子育て支援法に関して一般質問

### 放課後児童クラブ 6年生まで拡充へ

今回の3月定例市議会には、子ども・子育て支援法の趣旨に則って、「休日等子育て支援事業」に取り組む（日曜日と国民の祝日午前8時から午後6時）事が提案されましたが、このことは、働く人たちへ大きな支援になると考えています。また、2月16日の西日本新聞の第一面でも紹介され、他の自治体でも導入する動きが出てくるのではないかと考えています。

現在、飯塚市では、「飯塚市放課後児童健全育成事業」に取り組んでいますがこの実施条例は、児童福祉法（昭和22年法律第164号）の趣旨に則って実施されています。

昨年の9月に「子ども・子育て支援関連3法」が成立しましたが、この法律の中で「子ども・子育て支援法」は、「一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的とする。」と定めています。また、この目的に沿って、「こどもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、子ども及びその保護者に必要な子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て事業を総合的かつ計画的に行うこと。」が、市町村の責務として定められています。

「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育保育等の総合的な提供の推進に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」では、「児童福祉法（昭和22年法律第164号）」も規定を整備することとなっています。

この3法が提案される前の昨年3月に、少子化社会対策会議が示した「子ども・子育て新システムの基本制度について」に従う形でこの3法が提案され成立に至っています。

この基本制度の中の「子ども・子育て支援事業（仮称）」の中では、放課後児童クラブについては、「現行4年生までが放課後児童クラブの対象であるが、4年生以上も対象となることを明記して、4年生以上のニーズも踏まえた基盤整備を行う。」となっています。（現在、飯塚市では4年生までとしている放課後児童クラブで、4年生以上の利用状況は、平成23年度では508名で毎年増加の傾向にあります。）

市は、今後「子ども・子育て支援事業計画」を定めることとなりますが、その際は4年生以上の児童も利用できる環境整備を行うことが必要となります。

現状の実態を踏まえ早急に環境整備に取り組む事を要望致しました。

この要望に対して、児童福祉法の改正に伴い対象児童が6年生までになると、2カ所で施設整備の必要となり、関係各課と協議を行い環境整備に努めたい。また、「こども・子育て会議」を6月以降に立ち上げ、ニーズ調査を実施し、支援施策を地域の子ども及び子育て家庭の実情を踏まえて平成26年度後期までに、「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、更に子育て支援を充実していきたい。との答弁がありました。

## 平成 25 年度飯塚市一般会計予算委員会報告

平成 25 年度の飯塚市一般会計予算委員会は、3 月 12 日～14 日までの 3 日間開催され賛成多数で可決されました。

この委員会での、わたしの質問・要望等を報告致します。

◎現在、飯塚市では平成 23 年度から平成 28 年 3 月の完成を目指して「市誌」編さん業務に取り組んでいますが、どのような構成で編さんされているのか、所管委員会なり市報に掲載するなりして市民に進捗状況等を知らせるよう要望致しました。

◎平成 25 年度内の制定を目指して「自治基本条例」策定委員会が設置され協議が行われていますが、市民の皆さんへ協議内容・進捗状況の周知を要望すると共に、条例案として市議会に提案する前に、市議会の責務については市議会と協議をすることが望ましいと考えるので検討することを要望致しました。

◎飯塚市では、バスセンター・本町商店街・新飯塚商店街等の中心市街地の活性化事業に取り組んでいますが、旧穂波町・旧庄内町・旧筑穂町の活性化はこれからの状態です JR の鉄道駅中心に半径 1 km の円を描くと飯塚市に關係する鉄道駅は 1 4 駅あるのでこの駅を中心に拠点整備をしていくことが少子高齢社会の地域活性化に有効に利用出来るようになるので検討することを要望致しました。

◎環境審議会では、どのような審議が行われているのか。地球温暖化対策の推進に関する法律では、地方公共団体はみずからの事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出の量の削減並びに吸収作用の措置を講じることを求めていますので、予算計上されている伐採された草木の焼却で生じる二酸化炭素発生の抑制に取り組む様に要望致しました。

◎清掃工場の燃料費は、平成 25 年度では石炭コークス 1 6 0 0 トン使用で 7 5 8 7 万 1 千円が計上されていますが、円安等により価格が変動する要素が強いので、主体性を持って代替コークスの使用について検討する様に要望致しました。

◎医工学連携事業の一環として、米国カリフォルニア州のフォガティ研究所との交流費 8 3 万 7 千円が計上されていますが、積極的な交流を行い将来飯塚市での起業に結びつける様に要望致しました。

◎筑豊ハイツの運営については、民間への移譲・売却等を検討していますが、施設の老朽化等の問題で進んでいません。筑豊緑地には多くの利用者があるので、検討結果を早く出すように要望致しました。

◎教育委員会では、小中学校の統廃合・学校給食の自校方式等に取り組んでいるが、所管委員会等に具体的な内容の提示がされていない、市民にも提示されていないので教育委員会の説明責任を果たすように要望致しました。

◎鹿毛馬神籠石は国の史跡として用地を市が 9 7 % 購入してきましたが、今後の整備計画をどのように進めるのか検討を要望致しました。



## 飯塚市立小中一貫校颯田校完成

平成23年度から約23億6千万円を掛けて取り組んできました、颯田地区公民館・図書館・児童館を併設した颯田の小中一貫校が3月1日に関係者のみで落成式が行われました。

所管委員会の議員以外は案内もないため市議会の現地視察を要望し3月21日の本会議終了後に現地視察を行いました。

公共施設を併設していますので、広々とした空間を持つ建物が出来上がっていました。

特に各教室やランチルーム等には、これまで市内の学校に見られなかった木材を多く使用して環境配慮に努めていて、暖かみを感じる校舎となっていました。

(これまで、公共建築物に材木を使用する事を要望してきましたが、これまでの要望が取り入れられた校舎になっていました。)

市教育委員会に対して、これから市内では3校の一貫校が計画されているので、広く市民の皆さんに公開して今後の教育環境整備について説明し理解を求めるように要望致しました。(市議会・各PTA関係者・各地区公民館関係者にも施設見学等の案内をすることを考えない教育委員会ですから市民の皆様に配慮するのは疑問ですが。)



## 鯉田地区浸水対策事業進む

平成24年度の鯉田地区の浸水対策事業の愛宕調整池(貯水量約3000トン)・オートレース場調整地(貯水量約3000トン)が、3月末に完成致しました。

鯉田井手ノ上用排水路整備工事、浦田第一雨水幹線整備工事は一部完了しましたが平成27年度末の最終完成を目指して引き続き工事を行って行きます。

